

## ■ 学校と地域の連携を通じて、生き生きと活動に参画できる社会づくり (松原中学校)

### 1 【活動の趣旨】

- ・ 様々な地域課題について、体験的な学びを通してその解決に生徒が主体的に関わり、地域社会の一員としての意識と行動力を身に付けることをめざす。
- ・ 本年度は、校区の草津ブランド野菜「ベジクサ」に着眼し、その魅力を探究し、校区に根ざした農業を未来につなげる活動を展開する。

### 2 【特徴的な活動内容】

#### ○ 「まっばら ESD 講演会」

地域の農業に携わっておられる方々を講師として学校にお招きし、「愛彩菜（ワサビ菜）」、「近江彩菜」、「琵琶湖元気アスパラ」など草津ブランドの野菜栽培について様々な角度から講演会を開催。

#### ○ 「農業体験」

生徒会を中心とした、地元農家と収穫体験活動。

#### ○ 「ベジクサ PR プロジェクト」

「ベジクサ」の魅力をもっとPRするためのポスターづくり。

地域の方を招待してポスターセッションを実施。



【講演会のようす】



【愛彩菜の収穫体験】



【ベジクサ PR プロジェクト】

### 3 【実施に当たっての工夫】

- ・ 関係団体の協力により、新聞や広報誌に掲載された。  
（日本農業新聞、まちづくり協議会広報誌等）
- ・ 学校のHPを活用し、PR活動を行った。
- ・ 生徒自身がレシピや紙芝居などを作成し、地域の方をお招きして「PRコンテスト」を開催。

### 4 【事業の成果】

- ・ 講演会を重ねるごとに、生徒の興味や意識が向上し、積極的に質問するなど変化が見られた。
- ・ 生徒会を主体として活動することで、生徒自ら活動する雰囲気をつくれた。
- ・ 生徒が地元で生産されている農作物「ベジクサ」を知り、収穫等を体験することで、その魅力をより身近に感じることができ、「ベジクサ」を活用したレシピのアイデアの発案や、農業従事者の後継者問題にも学びを深めようとする様子が見られた。

### 5 【事業実施上の課題・今後の連携・協働活動実施に向けて】

- ・ 体験活動を行う人数と機会を広げる。
- ・ 持続的な活動とするために、計画を見直す。
- ・ 「教える」のではなく「一緒に考えながら」生徒に自ら進むべき方向性を考えさせる必要がある。